

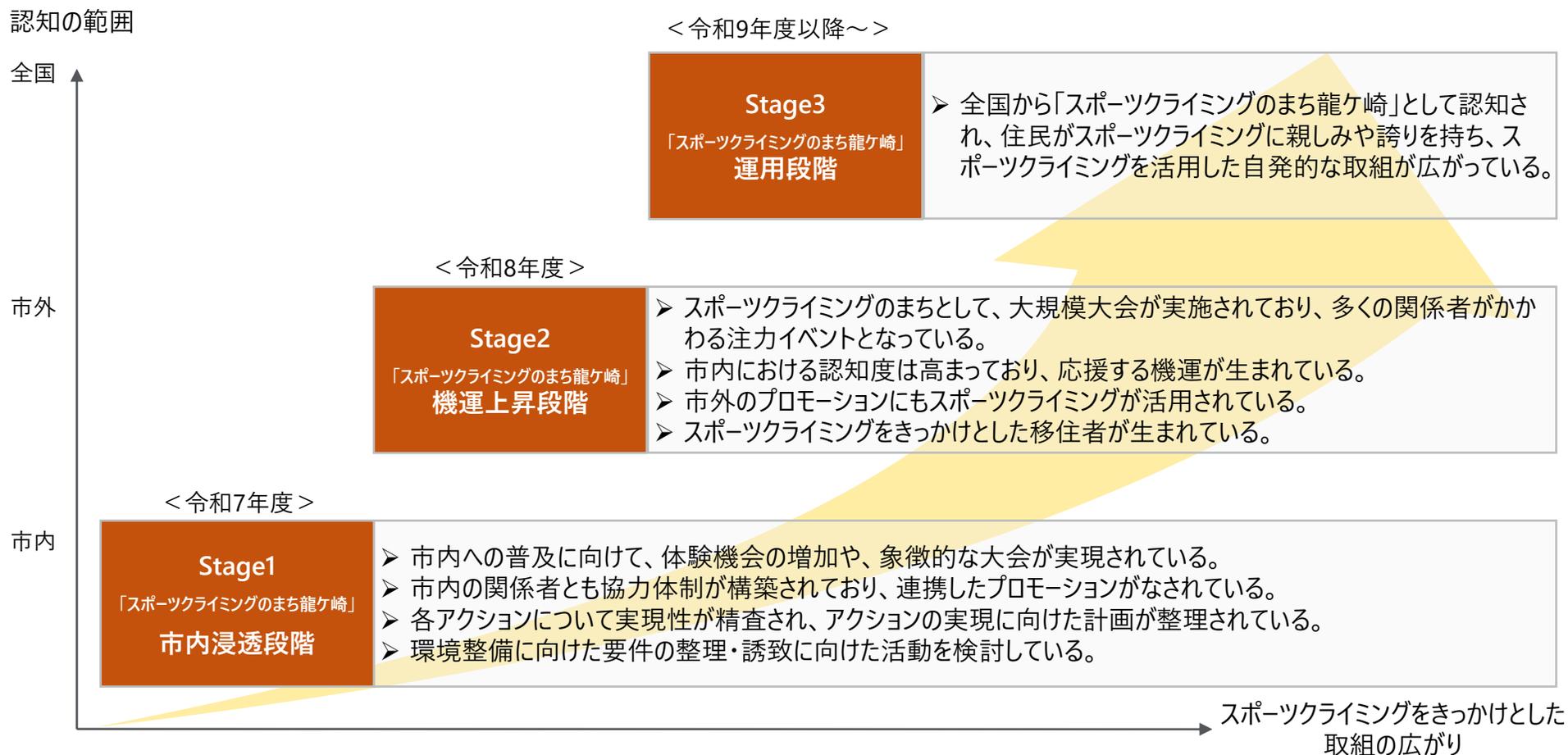


スポーツライミングのまち龍ヶ崎推進事業

令和7年度の実施計画

「スポーツライミングのまち龍ヶ崎」の実現は、スポーツライミングに親しむ環境の整備、選手等を応援する機運の醸成、大会等の開催による交流人口増加の3段階で取り組みます

「スポーツライミングのまち龍ヶ崎」実現に向けた展望



市内浸透段階である今年度では、「教育・学習」・「にぎわい創出」・「プロモーション」・「環境整備」を優先事業テーマとして展開しました

今年度事業の位置づけ

1年目：令和6年度

2年目：令和7年度

3年目：令和8年度

令和9年度以降

基本構想策定段階

市内浸透段階

機運上昇段階

運用段階

取組内容

- 「スポーツライミングのまち龍ヶ崎」として どんなまちを目指し、どんなアクションを展開するかを明確化する
- 体験機会の増加や、象徴的な大会が開催され市内への普及につながっている
- 市内関係者と協力体制が構築されており、連携したプロモーションがなされている
- 環境整備に向けた要件の整理・誘致に向けた活動を検討している
- 各事業について実現性の精査及び計画が整理されている
- 大規模大会が継続実施され、イベントには多くの関係者が関わっている
- 市内における認知度は高まっており、応援する機運が生まれている
- 市外へのプロモーションにスポーツライミングが活用されている
- アスリート支援や人材確保施策にも注力し、総合的なアクション推進が図られている
- 全国から「スポーツライミングのまち龍ヶ崎」として認知され、市民がスポーツライミングに親しみや誇りを持ち、スポーツライミングを活用した自発的な取組が広がっている

2年目である令和7年度は、市民への浸透を図ることを目的に、**「教育・学習」・「にぎわい創出」・「プロモーション」・「環境整備」**を優先事業テーマとして展開するとともに、産業振興や人材確保につながる取組を行いました

調整会議は計3回開催。参加者へ各アクションの検討状況の報告、意見出しを行いながら「スポーツライミングのまち龍ヶ崎」の取組を推進してきました

官民連携調整会議の運営

回数	第1回	第2回	第3回
時期	2025年8月18日	2025年11月18日	2026年3月3日
目的	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 本会議・分科会の位置づけ共有 ✓ 年度内スケジュールの共有 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 各分科会における討議内容の報告 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 今年度の活動実績共有 ✓ 次年度の調整会議、個別事業案の実施方針共有
議題	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 今年度事業の背景・目的の共有 ➢ 各事業の実施方針の共有 ➢ 調整会議・各分科会のスケジュール・メンバーの共有 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 各種事業の進捗共有及び意見交換 <ul style="list-style-type: none"> ・学校分科会での協議内容の共有 ・11月体験会開催結果の共有 ・産業連携における事業者ワークショップの開催結果の共有 ・プロモーション分科会での協議内容の共有 等 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 各事業成果の共有 ➢ 各事業の次年度方案の共有 ➢ 次年度の会議体運営方針の共有

学校連携では、スポーツライミングの興味を湧かせる体験機会と、興味を持った子どもが競技力を高められる機会／制度を整えるための実施計画を策定しました

学校連携における施策

1.学校連携

2.体験会

3.大会開催

4.地域連携

5.市内PR

6.市外PR

8.環境整備

9.人材確保

10.資金調達

目指すべき姿

- ✓ 龍ヶ崎市に住む全子どもが、スポーツライミングを体験する機会がある
- ✓ スポーツライミングに興味を湧かした子が、定期的に練習できる環境が整っている

実施施策

■ 基本構想を踏まえ実施施策案について分科会にて検討を進める

① 授業・放課後等でのスポーツライミングの体験・学習機会の創出

学校と連携しスポーツライミングに親しむ機会を増加させる

- 授業でのスポーツライミング体験の導入
- 学校内へのウォール設置
※一部学校へは助木を活用した取組を開始
- キャリア教育授業へのスポーツライミングの活用

② 定期的に練習が可能な機会や制度(地域クラブ活動化)等の確立

施策を通して興味を持った人が、継続的に練習し将来的な選手を目指すことができる環境の構築を目指す

- 練習場所の確保
- 実行体制スキームの検討
- 指導人員の確保

“いつ”・“どこで”・“誰が”・“何を”行っていくのか検討する

今年度のゴール

分科会の意見や想定される課題と対応方針を踏まえ、
目的・主体・場所・時期・実施内容を整理した計画案を策定する

まずは2026年度、開催を希望する対象校に対してスポーツライミングの体験授業を開催します

2026年度に開催する学校体験会の概要

1.学校連携

2.体験会

3.大会開催

4.地域連携

5.市内PR

6.市外PR

8.環境整備

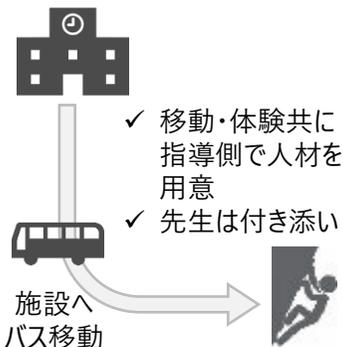
9.人材確保

10.資金調達

実施手法

学校側の意見も伺い、以下パターンのうち実現できる手法で準備・開催

実現パターン①：たつのこアリーナに移動して、体験会開催



メリット／デメリット

- (+) 同時に登れる人数がより多い
- (+) 1～2回体験したことがある児童生徒でも十分に楽しむことができる
- (-) 生徒誘導にあたる人的コストと、バス移動による金銭的成本が発生する。当該コストが対象クラス分発生する
- (-) 移動時間込みとなるため、2～3コマ分の授業時間を確保する必要がある

実現パターン②：学校へウォールを持ち込み、体験会開催



メリット／デメリット

- (+) 目指す姿に近い環境で体験会を開催でき、今後発生しうる課題を把握しやすい
- (+) 児童生徒移動に係る人的・金銭的成本がない／先生の負担も少ない
- (-) 特設ウォールを一定期間置けるスペースが必要になる
- (-) 体験会以外の時間での利用ルールを定める必要がある
- (-) ウォール設置の人員・期間が要る

対象校

10校の小・中学校を対象に開催する想定です（2026年3月時点）

学校名	実施手法	対象学年
城西中	実現パターン①	2年生
中根台中	実現パターン①	1年生
長山中	実現パターン②	—
龍ヶ崎西小	実現パターン①	5・6年生
八原小	実現パターン①	5・6年生
松葉小	実現パターン①	5・6年生
長山小	実現パターン①	全学年
久保台小	実現パターン①	全学年
川原代小	実現パターン①	全学年
龍ヶ崎小	実現パターン②	—

今年度、若年層中心に多くの市民に対して体験機会を提供いたしました

今年度の体験会開催実績

1.学校連携

2.体験会

3.大会開催

4.地域連携

5.市内PR

6.市外PR

8.環境整備

9.人材確保

10.資金調達

今年度開催した体験会



11/8 (土)
たつのこアリーナ親子体験会



11/23 (日)
龍ヶ崎産業祭いがっぺ市



2/7~11
AKIYO'S DREAM期間中

トッパークライマーによる指導・一般開放を実施
(次スライド以降にて詳細)



一般開放・ノベルティ配布を実施



11/8にて、野口啓代氏を含むトップクライマー3名による親子向け体験会を開催。 保護者25名、児童28名の計25組53名にご参加いただきました

11/8実施報告

1.学校連携

2.体験会

3.大会開催

4.地域連携

5.市内PR

6.市外PR

8.環境整備

9.人材確保

10.資金調達

開催概要

- 野口啓代氏を始め、トップクライマー3名による2部構成の体験会と、アリーナウォールの無料開放を実施
- 大人の体験機会創出も兼ね、体験会の対象は親子30組とした

2025
11月8日(土)
10:00~11:00
11:30~12:30

親子でボルダリング体験

参加費無料

ゲストクライマー

野口啓代さん
ボルダリングの魅力を伝える活動家として、国内外で多くのイベントに参加。その経験を活かして、子どもたちに楽しくボルダリングを体験してほしいと、今回のイベントを開催。参加者全員にオリジナルの記念品をプレゼントし、思い出に残る体験会にする。

渡部 睦太さん
2015～2022年、ボルダリングの魅力を伝える活動家として、国内外で多くのイベントに参加。その経験を活かして、子どもたちに楽しくボルダリングを体験してほしいと、今回のイベントを開催。参加者全員にオリジナルの記念品をプレゼントし、思い出に残る体験会にする。

通谷 謙さん
2015～2022年、ボルダリングの魅力を伝える活動家として、国内外で多くのイベントに参加。その経験を活かして、子どもたちに楽しくボルダリングを体験してほしいと、今回のイベントを開催。参加者全員にオリジナルの記念品をプレゼントし、思い出に残る体験会にする。

会場: ニューライフアリーナ観客席サブアリーナ (設け崎市中央 3-2-1)

対象: 市内在住のボルダリング初心者の小学生と保護者 (各回 15組)

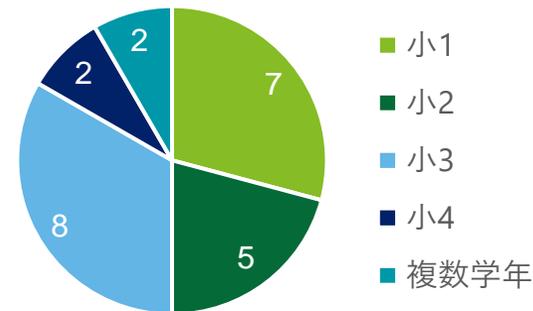
参加申込: 10月8日(水)午前8時から申込開始
詳細・申込は右下の二次元コードから

実施報告

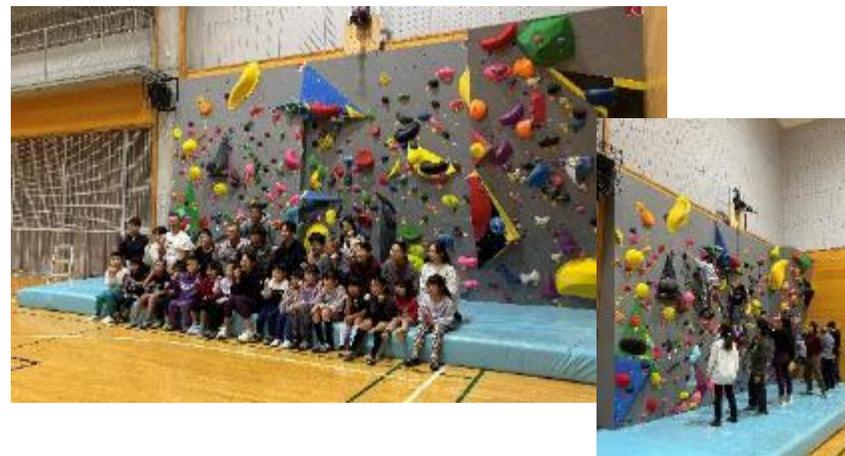
参加者

保護者: 25名

児童: 28名



当日の様子



保護者への事後アンケートにて、参加者の8割以上がボルダリングを続けたいと回答。保護者の競技への理解を深める上でも、親子での体験機会は今後もつくっていく必要があります

11/8実施報告

1.学校連携

2.体験会

3.大会開催

4.地域連携

5.市内PR

6.市外PR

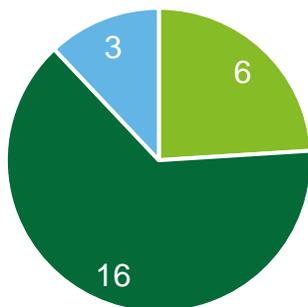
8.環境整備

9.人材確保

10.資金調達

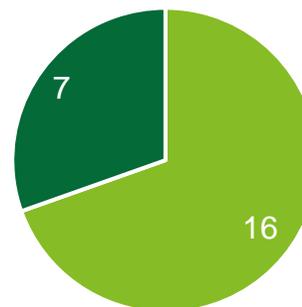
アンケート結果（参加保護者25名が回答）

■ これからボルダリング(スポーツクライミング)を続けたいですか。



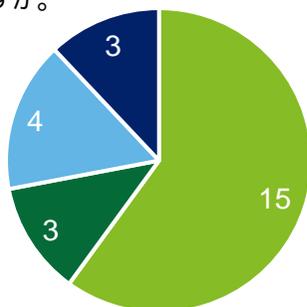
- 必ず続ける
- 機会があれば続ける
- 分からない

■ ニューライフアリーナ龍ヶ崎でボルダリング教室を行っていることを知っていますか。



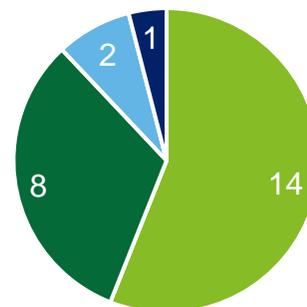
- 知っている
- 知らない

■ 「スポーツクライミングのまち龍ヶ崎」の取組を知っていますか。また、関わりたいと思いますか。



- 認知○、関与意欲○
- 認知○、関与意欲×
- 認知×、関与意欲○
- 分からない

■ ニューライフアリーナ龍ヶ崎のボルダリング教室に参加してみたいと思いますか。



- 思う
- 少し思う
- あまり思わない

■ その他自由記載（全15件：一部抜粋）



保護者

とても楽しかったです、やさしいご指導ありがとうございました。
久しぶりに動きたくたになりました、やって良かったです。

実際クライミングを体験してみて腰を曲げたり柔軟性がないと登れないということが体感できた。初めてやったが楽しかった、こういう機会があればまたやりたい。

示唆

一般開放では、体験会に参加した親子で登り方を相談している場面もあった。子どもが競技に関心を持ち、継続していく上で保護者の関与は重要であり、競技の楽しさ、難しさを体感してもらう機会は引き続き作っていく必要がある

昨年度に続き、ユース大会「AKIYO's DREAM with RYUGASAKI」を2/7,8に、関連イベントとして日本男子トップ選手のコンペ、様々な層向けの体験会を2/10,11に開催しました

大会の開催

1.学校連携

2.体験会

3.大会開催

4.地域連携

5.市内PR

6.市外PR

8.環境整備

9.人材確保

10.資金調達

2/7,8 AKIYO's DREAM with RYUGASAKI

1 AKIYO's DREAM with RYUGASAKI

- ユース（小3～中3）世代を対象としたスポーツライミングの「ボルダ―」競技の大会を開催
- 国内トップ選手をゲストとして招待し、大会の解説やデモンストレーション、サイン会を実施
- キックオフイベントとして開催した昨年度よりもコンテンツを充実させ、大会会場に体験用の特設ウォールやフォトスポットを設置
- 市内中学校の吹奏楽部の演奏も実施

大会壁を活用した
にぎわいイベントを併催



2/10,11 大会アレンジ企画

2 日本男子トップ選手のシミュレーションコンペ（2/10）

- 日本を代表するボルダ―男子トップ選手によるシミュレーションコンペを実施
- 市内小学校からおよそ120名の生徒が観戦、体験会を実施
- コンペ壁は一般開放



3 ボルダリング体験ラリーイベント（2/11）

- 大会用に設置したウォールなどを活用し、計3つのウォールでどなたでもチャレンジできる体験会を開催
- コンペ壁の一般開放も実施



AKIYO's DREAM with RYUGASAKIの様子



大会来場者は昨年度大会を上回り、コンペ・体験イベントでも多くの方に来場・参加いただきました。イベント期間中の交流人口は市内外合わせて1,500人程度となっています

大会期間全体を通しての振り返り

1.学校連携

2.体験会

3.大会開催

4.地域連携

5.市内PR

6.市外PR

8.環境整備

9.人材確保

10.資金調達

開催目的

「スポーツライミングのまち龍ヶ崎」として象徴的なにぎわいイベントの開催等により
交流人口の拡大と地域経済の活性化及び関心度を高める

振り返り

交流人口の拡大

- (○) 大会では出場者206名、来場者1,500名程度が訪れ、昨年度以上に大きなにぎわいをつくることができた
- (○) アレンジ企画でもコンペ、体験イベントにそれぞれ200人程度、160人以上が訪れた

地域経済の活性化及び関心度

- (○) 大会では飲食や物販で本取組とコラボした商品を販売
- (○) 大会期間から設置した体験壁も多くの人が利用しており、この体験をきっかけに2/11のイベントに訪れる方もいた
- (△) クライミングに関心が薄い市民が参加しやすい周知方法／囲い込みをより行えると良い（団体への案内等）
- (－) 演出含めハイレベルな大会だったことを市媒体などで積極的に事後発信

その他

- (△) 特に国の交付金採択終了後も、継続的に大会・イベントの開催を見据えた際に、収入源の多様化をはじめ収益性の更なる改善を図る必要あり

スポーツライミングに関連した商品の開発に向けた意欲・機運を醸成するため、今年度はワークショップを開催しました

事業者ワークショップの開催

1.学校連携

2.体験会

3.大会開催

4.地域連携

5.市内PR

6.市外PR

8.環境整備

9.人材確保

10.資金調達

目的	<ul style="list-style-type: none"> ✓ スポーツライミングに関連した商品開発に向けたニーズの把握 ✓ にぎわいイベント等を活用した地域の名産品等との連携に関する意欲促進
参加者	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 市内事業者 飲食系・製造系・サービス系をはじめとした事業者16名が集まりました
実施時期	2025年11月5日
場所	龍ヶ崎市役所保健福祉棟3F多世代交流センター「RINK」コミュニティホールA・B
開催形式	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 参加者を5～10名程度の小グループに分けて、意見交換 ※各グループで事務局にて進行

プログラム	全体説明
	15:00-15:05 ご挨拶・本日の進め方ご共有
	15:05-15:15 本事業のご紹介
	15:15-15:30 スポーツライミングとは？の説明 (競技について、市場性、関連商品等)
	ワークショップ①
	15:30-15:50 ワークショップ① <ul style="list-style-type: none"> < 想定議題 > ✓ スポーツライミングに関連した事業のアイデア
15:50-15:55 各グループで議論されたことを共有	
ワークショップ②	
15:55-16:10 意見交換② <ul style="list-style-type: none"> < 想定議題 > ✓ ①で考えた事業アイデアを実現するために必要な支援 	
16:10-16:15各グループで議論されたことを共有	
16:15-16:25 プロモーション施策を共有	
16:25-16:30 クロージング	

アナログコンテンツとして横断幕、のぼり、クライミングオブジェを制作。動画と合わせて大会や体験会時も活用し、にぎわい創出事業との連携による効果的な集客・周知を行いました

R7成果物 ロゴ活用、横断幕・のぼり制作

1.学校連携

2.体験会

3.大会開催

4.地域連携

5.市内PR

6.市外PR

8.環境整備

9.人材確保

10.資金調達

	ロゴ活用	横断幕 (3枚)	のぼり (50枚)
概要	<ul style="list-style-type: none"> 市のマスコットキャラクター「まいりゅう」のクライミング事業用のロゴを作成・活用 	<ul style="list-style-type: none"> 「スポーツクライミングのまち龍ヶ崎」の文字と壁を登るまいりゅうのロゴで構成 	
作成目的	<ul style="list-style-type: none"> 事業のシンボルとなるロゴを活用し、大会やイベント、関連事業で無償利用可能とすることで取組イメージの統一や事業者との連携促進を図る 	<ul style="list-style-type: none"> 市内の駅や公園等の人が集まる場所に横断幕を設置し、まちとしてスポーツクライミングを応援している雰囲気醸成、無関心層へのアプローチを図る 	
活用状況	<ul style="list-style-type: none"> 各種チラシへの掲載 各種グッズでの使用 	<ul style="list-style-type: none"> ニューライフアリーナ (大会開催時) 歩道橋 	<ul style="list-style-type: none"> 市役所 官民連携調整会議や事業者向けワークショップに参加をいただいた市内事業者を中心に随時設置

活用イメージ



プロモーション映像はSNS等での配信を想定した30秒版のショート動画、撮影場所となった市内施設の説明が含まれる10分程度のメイキング動画を作成しました

R7成果物 プロモーション動画制作

1.学校連携

2.体験会

3.大会開催

4.地域連携

5.市内PR

6.市外PR

8.環境整備

9.人材確保

10.資金調達

ショート動画

概要

- 30秒のストーリー（演技やセリフ）重視の構成
- 映画の予告編のような構成
 <ストーリー> 野口さんのオリンピックでの活躍を見た市内の女子高生がスポーツクライミングを始め、大会へ出場するまでの過程を追った青春クライミングムービー

活用想定

- 「スポーツクライミングのまち龍ヶ崎」の取組をより多くの人に認知してもらうため、イベント実施時の他、SNSやサインージでの活用を想定

動画イメージ



メイキング動画

- 10分程度のショート動画撮影時のメイキング映像
- 撮影風景や演者のコメントの他、市内撮影場所の紹介がされる

- 30秒のショート動画では伝えきれない市の魅力スポットをPRするため、イベントや講演等実施時の活用を想定



アナログコンテンツとしてクライミングオブジェを制作。動画と合わせて大会や体験会時も活用し、にぎわい創出事業との連携による効果的な集客・周知を行いました

R7成果物 クライミングオブジェ制作・設置

1.学校連携

2.体験会

3.大会開催

4.地域連携

5.市内PR

6.市外PR

8.環境整備

9.人材確保

10.資金調達

大型オブジェ（1個）

概要

- 可動式の台にスポーツクライミング×まいりゅうの等身大のロゴを据え、背面に実際のホールドを使用したクライミングの壁を設置したオブジェ

作成目的

- 多くの人が集まる大会やイベント、商業施設や駅等でスポーツクライマーが壁を登る様子を模したインパクトのある大きな装飾を施し、来場者の注目を得る

設置場所

- 市役所、ニューライフアリーナ龍ヶ崎、その他イベントなどを想定

活用イメージ



本事業におけるその他アクションにおける取組報告と次年度の取組は以下の通りです

各事業の今年度取組結果、 次年度取組まとめ

1.学校連携	2.体験会	3.大会開催	4.地域連携	5.市内PR	6.市外PR	8.環境整備	9.人材確保	10.資金調達
--------	-------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	---------

テーマ	アクション		今年度の取組報告	次年度以降の取組
⑥環境整備	8	スポーツライミング 環境整備	<ul style="list-style-type: none"> スポーツライミングの普及及び選手育成に資する環境整備に向けた調査・方針策定 	<ul style="list-style-type: none"> ニューライフアリーナにおけるウォール増設 市内保育園へのウォール設置 中規模／大規模施設の整備に協力可能な事業者の掘り起こし
	9	人材確保	<ul style="list-style-type: none"> 地域おこし協力隊の要件整理 	<ul style="list-style-type: none"> 地域おこし協力隊の募集
	10	資金調達	<ul style="list-style-type: none"> ふるさと納税・ガバメントクラウドファンディング実施 	<ul style="list-style-type: none"> 個別アクションを対象としたガバメントクラウドファンディングの実施スキーム確立